

陳述書

前春日井市議会議員 奥村博史

私は、議員になる前に、地元量販店の清水屋一筋で、最後は役員を務めさせて頂きました。民間企業に 45 年勤務した私が、当選し、自由クラブに入会した際、余りにも民間企業と違う雰囲気には驚きました。私の中学校の同級生でもある伊藤前市長とタッグを組んでいた友松議員が絶大な権力を持ち、議会全体を牛耳っていて、数人の無党派議員を除き、ほとんどの議員、市職員が、彼に忖度し、気を使っていることが分かり、自由クラブで毎日一緒にいるとその重圧で大変重苦しさを感ずる職場でした。友松議員は、議会の議長、副議長、委員長等の役職指名だけでなく、市役所の部課長の昇進にも、友松議員の好き嫌いが反映されていました。それは、年末の議会議員と市役所部課長が参加する懇親会の後に行われる 2 次会「友松会」に呼ばれるか否かで、昇進が決まると言われ、市長が現市長に変わり、あからさまな影響力は弱まっていますが、友松会は今も続いています。

私が 2022 年 6 月か 7 月頃にその友松議員と梶田正直議員と少数でランチに行った際に、友松議員が気に食わない奥村昇次議員に対し、次回の選挙(2023 年 4 月)前に自由クラブから追い出すと言うことを何回も聞きました。そして、たまたま、今回の裁判の原因となる事件が起きた 2023 年 12 月 28 日午前中に、議会事務局の沖中局長が、梶田正直議員と私の前で、「友松議員は、昇次議員を次の選挙前に追い出すことを決めたと言っていた」と話していました。そして、その日の午後、議会報原稿の件で、議会報委員長が自由クラブを訪れ、問題が大きくなり、そのやり取りの中で昇次議員が暴言を吐いたとして友松議員が激怒して、昇次議員を追放することを決めたことに繋がっていきました。その事件の夜、正直議員から、連絡があり、「林議員が『友松議員から聞いたが、昇次議員が友松議員に暴言を吐いたので辞めさせると言っている、1 年生議員 7 人で何とか止める様にできないか』と話されたので、

夕方、堀尾議員に来てもらい相談し、ひろし議員にも、相談の連絡を入れた」と言われました。

昇次議員の議会報原稿について、詳細を聞きましたが、議会報委員会委員を何回も経験した私が判断するに、全く問題が無く、一任された委員長が必要なら本人に直に話せば済む話であり、委員長の行為が不思議で非常に理解に苦しむことを感じています。

2023 年の 1 月 3 日の自由民主党丹羽代議士賀詞交歓会の後、林議員から言われた、1 期生仲間で昇次議員を助けられないかという話を受け、梶田正直議員と堀尾議員と私の 3 人で、話し合いました。その内容は、翌日 1 月 4 日に開催予定の全員会に於いて、昇次議員の処分に反対意見を言うことと将来証拠となり得る録音を取ることを打ち合わせました。

そして、2023 年 1 月 4 日の自由クラブ全員会では、昇次議員が 3 役の不条理な提案を拒否し退出後、友松議員の意図を反映し、昇次議員を退会させるべく進行しましたが、堀尾議員がまず、議会報での委員長対応について疑問を投げかけた後、私が、議会報の原稿の手続き上の些細な話で、退会させることは有り得ない旨の反対発言をしました。裁判で、加納議員、金澤議員の証言で、全員会で全く反対意見が無く、決を取り、全員賛成したと口裏を合わせていましたが、全く異なり、決も取られず、昼食時間が近づいた為、曖昧なまま、自然解散となったのが真相であります。又、私も昇次議員の前に自由クラブの役員である書記をやっていて、全員会では必ず議事録を取り保管していました(昇次議員も同じく必ず残されていました)が、その時書記(昇次議員)が不在で、代理指名も無かった為、正式な議事録が取られておらず、その意味からも、退会は認められません。

2023 年 1 月 13 日に、市議会棟から車でしか行けないレディアン春日井に場所をわざわざ移し、昇次議員に声を掛けず、残り 13 名で自由クラブ全員会が開催されました。そこで、3 役から、「一旦自由クラブを解散する、そして、ここにいるメンバーだけで、自由クラブを本日付けで再結成する」旨の説明がありました。

私は、1月4日の全員会で昇次議員を除名できなかった為、友松議員が以前から昇次議員を追い出す手立てを使ってきたと考え、強く異議を唱え、私自身も退会を申し出ました。それに続き、梶田正直議員、堀尾議員、伊藤貴治議員、安達議員、前田議員が退会を申し出た為、執行部は驚愕した模様で、昼休みを挟み、午後に再度開催するとして休会しました。そして午後に再開されましたが、6名の議員の意志は固く、退会することになり、私と正直議員はその日に、他の議員は翌日に退会届出を議会事務局に提出しました。その話を聞かれた昇次議員も1月16日に退会届出を提出しました。

今回の事案は、全て友松議員が、筋書きを描き、抗えない周辺の3役の長縄議員、加納議員に協力させ、又、陳述書(備忘録)を加納議員、金澤議員、伊藤杏奈議員に書いてもらい提出していますが、議会報原稿を始め、友松議員に忖度した内容で、事実とは大幅に異なり、昇次議員が不憫で仕方がないと感じています。このまま、友松議員が勝訴(損害賠償棄却)で終わると、友松議員の思うがままの議会運営(次回議長に加納議員、副議長に伊藤杏奈議員が内定)が続き、30万市民不在の議会政治が続く恐れがあると思い、議員を引退した身ですが陳述書を提出させて頂くことにしました。

令和6年4月24日

住所: 春日井市熊野町1635番地

氏名: 奥村博史 